



「のりもの」好きなクラシック人間です

Kさん

「環境配慮指針」を推進するためには、市民・事業者・市が一体となり環境施策を推進していくことです。私たち市民は、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムで、物質的に豊かになった反面、資源・エネルギーの大量消費を生み出してきました。これらの影響により近年は、地球温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨等の地球環境問題が引き起こされています。私たち市民は健康で安全な環境を将来世代継承できるように環境の改善に取り組んでいくことです。そのためには、ごみの減量・再利用・リサイクルを進めることをはじめ、日常生活や事業活動の全般にわたって環境施策を再評価し、「循環型社会」の形成に向けた取り組みを積極的に推進していくことです。



そそっかしいのは天然です

Nさん

環境に関心をもち始めたのはいつだろう。20代で病気をし、身体のためになるべく添加物の入っていないものを食べるようにしたり庭で野菜を作ったりしていました。ところが、子供が中学1年の時、学校の校舎が新築でしたが、体中に湿疹がでて大変でした。クラスには治っていたアトピーがぶり返した子がいました。シックスクールでした。いろいろな本を読んで、化学物質は食物より空気からの方が4倍多く体内に取り込まれるそうです。漢方を煎じたり、家を無垢の木と漆喰にしたりして良くなりました。

しかし、便利で安い石油から作られたものはたくさんあります。燃やせば有害物質が出て、雨や川から海に流れて汚染され、人体に入ります。何とか減らせないかと思いつけています。

私はものを買うとき、いずれ土に返るものか考えてみることにしています。全て天然のものをというのは難しいので、古いもの、特に衣類は古着なら良いことにしています。また、化石燃料をなるべく使わないよう、南の窓の前にトマト、キュウリなど野菜の鉢植えを置いて涼しい風が入るようにして扇風機だけの生活をしています。冬は床暖房で足は暖かいので、室温を低くして過ごしています。朝は足湯、昼は重ね着、重ね履き、夜は湯たんぽで冷えた足を暖めると全身ポカポカしてきます。

環境に良いことをすることは身体に良く、経済的です。また、災害が起きたときの準備になるのではないかと考えています。



自転車で自然や建物を
見てまわることが好きです

Eさん

検討会のメンバーには環境問題のベテランが多いですが私は初心者でした。例えばごみの問題にしても、市から配布された「ごみと資源の出し方」を見て正しく出すことは心がけていたけど、ごみをできるだけ出さないという当たり前の解決法を知らなかったことに気がきました。手始めにダンボールコンポストをやってみて、こんな簡単なことで燃えるごみの4割が減らせるならすごいことだと思いました。環境問題はごみだけでなく水、緑、生物、エネルギーと広範囲で、個人でできないことも多くあります。でも3.11の大震災と原発事故を経てその前よりもっと、個人でもできること、みんなで集まってできることが何かないかと考えるようになりました。ごみや身近なことから始めると、環境全体につながる入り口になると思いました。



編み物や縫い物など
手仕事が好き。子供と猫に
邪魔されるのが悩み

Sさん

2011年の東日本大震災以前、環境について真剣に危機感をもったことはありませんでした。節電や節水、ガスの使い方、買い過ぎに注意するの頭にあるのは家計のことが中心。合成洗剤や農薬使用を気にするのも家族の健康を気づかうため、環境保全やエネルギーのことは頭のすみ追いやられていました。

科学の進歩、開発での被害や自然破壊については、学校でも学習してきました。しかし、どこか他人事で自分の身にふりかかるという想像も難しかったと思います。

私にとって原発事故は衝撃的でした。一瞬にして今までの生活が一変してしまう出来事が起こるということを目の当たりにして、便利さという代償にともなう危険に気づきました。

環境保全を意識するきっかけは人それぞれ違います。小さなことでもいいと思います。気づいた人から少しずつ自分にできる環境への配慮を始めることが大切なことではないかと思っています。



いつでもフットボール、
いつまでもスイミング、が好き

Mさん

環境保全の目的は「人」と「自然」を大事にすること以外にはないでしょう。どんな理屈をつけようと、そこは譲れません。でも、水俣病、アスベスト被害、福島原発事故などは国が率先して人・自然を守るべきところを、むしろ原因企業を守るように見えます。環境保全の問題は地球温暖化、オゾン層の破壊、自然の喪失、化石燃料の喪失などでしょう。これらは市民レベルで解決できる問題ではありません。社会的な対応、政治的決定によるほかにありません。こうやってしまうと、市民は環境保全に関与できないことになり、社会的政治的にかえるしかない！と。その点はそのとおりです。でも、そもそも環境が問題であるという意識なしには、実は政治も生活もその変化は何も始まりません。「私は少し無駄な電気の使用を控えよう」「月々の電気代が高くて困る」などの当面する問題が省エネ・環境保全の意識化のスタートだと思います。

小学生は野菜をスーパーで買うものと考えますが、野菜が自然環境・土で作られていることを意識しません。大人である私たちも、日常的には環境を意識するよりも金銭や効率を優先して生活をしていると思います。

政治も生活もその変革は、気づきが無ければ始まりません。その意味で環境保全のスタートは「環境への気づき、学習」であると思います。一人ひとりが環境保全に努力することは大切なことです、しかし、そこに重点を置くことは道徳主義的アプローチとなり、大きな目的に達することは出来ないと思います。

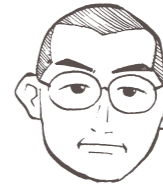
私は環境保全の危機を煽るのではなく、長期的な視点と理性的な判断を求めて、「環境大事生活」をしていきたいと考えます。



食べること大好き
野菜丸ごと調理にはまっています

Bさん

電気も水も使いたい放題だった娘が結婚して家を出て、我が家の光熱費は半減した。娘はといえば、家にいた時とは打って違って、電子レンジなし、掃除機なし、アイロン、ドライヤーなし、お鍋も家具も何もかも必要最低限しか持たず、無駄な買い置きもしない超シンプルライフを始めている。環境に関心がなくても人は変わる、ということを目の当たりにした。彼女には、彼女なりの基準があるようだ。天然・自然素材のものが好き、デザイン性は絶対に譲れない等。本当に気に入ったものだけに囲まれて暮らす娘の暮らしぶりを見て我が家を振り返ると、要らないものがたくさんあることに気が付いた。そんなに物はなくても、むしろ無いほうが、物を大事にして豊かに暮らせるのかもしれない。今度は私がエコな暮らしに向けて断捨離する番か。老いては子に従えという言葉が頭をかすめている。



シャイな私 SFが大好き

Nさん

私は、思春期といえる中学2年生の時（今から45年前）に裏の雑木林が1日にしてすべて切り倒された体験をし、それが、所謂「トラウマ」のようになり、自然が消失していくことや生態系が破壊されていく事に物凄い喪失感（危機意識）を感じます。

このような経験を他の方（後世の世代を含む）にはさせたくないという気持ちを持っています。逆にこのような体験を、環境教育的なレベルで、これからの時代を担っていく子供達や若い方に体験してもらおうと、何か得るものがあるような気がします。

「エコツーリズム」、「環境ボランティア」、「環境教育を兼ねた遠足」等は有意義なものだと思います。

私は、今（2014年10月）から50年前の東京オリンピックの年に小平市に引っ越してまいりました。当時の小平市の街並みは、青梅海道にはケヤキ並木がきれいに並んでいたり、至る所に雑木林があったり、水路があったことを憶えています。

また、私の家の事情は、電気だけが来ていました。他の公共サービスは、プロパンガス、汲み取り式便所、井戸水をくみ上げていて、同じ敷地に下水道に代る汚水吸い込み用の穴が掘ってありました。所謂、インフラは、整っていなかった訳です。一方、自然は今と比べ物にならないくらい豊かでした。私の家の東にはその先が見えない程、雑木林が広がっていて、特に夏には、子供が好きなかぶと虫、クワガタ等の昆虫は、夜、蜜の出る木に行くと好きなほど採れました。

朝と夕方には、蝸の鳴き声が夏の暑さを和らげてくれました。明け方の蝸の声は夏の朝を告げてくれる優しい目覚まし時計のようでした。

今住んでいる自宅の周りには、雑木林はありません。当然、雑木林が織りなす多種多様な濃密な自然の移ろいを感じることはなく、現代的な住宅で快適な暮らしをする中では、自然の移ろいを身体全体で感じることは少なくなりました。



お料理すること
食べるのが好きで

Sさん

環境に配慮することは、今の私たちのためだけでなく、未来の子どものためにもとても大切なことです。便利に暮らすことは良い面もそうでない面もあると思います。お風呂を沸かしたり、毎日の食事のために、限りある地下資源や食材を遠い国から運んでこなくても私たちの近くで何とか工夫ができないかと思っています。ゴミはきちんと分別すると資源になります。節電は環境にも優しいですが、お財布にも優しいです。一つ一つは小さく面倒くさいことかも知れませんが、暮らしの中の小さなことから地球の環境が大きく変わるのかもしれない。